

## 平成23年1月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成22年6月3日

上場取引所 JQ

上場会社名 ピープル株式会社

コード番号 7865 URL <http://people-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役

(氏名) 桐渕 千鶴子

問合せ先責任者 (役職名) IR担当

(氏名) 飛田 留美子

TEL 03-3862-2768

四半期報告書提出予定日 平成22年6月4日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満四捨五入)

### 1. 平成23年1月期第1四半期の業績(平成22年1月21日～平成22年4月20日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年1月期第1四半期	692	13.1	71	77.2	84	94.9	58	132.5
22年1月期第1四半期	612	22.7	40	—	43	—	25	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年1月期第1四半期	13.36	13.35
22年1月期第1四半期	5.75	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年1月期第1四半期	2,191	1,741	79.5	399.49
22年1月期	2,372	1,891	79.7	434.03

(参考) 自己資本 23年1月期第1四半期 1,741百万円 22年1月期 1,891百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年1月期	—	0.00	—	45.00	45.00
23年1月期	—	—	—	—	—
23年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

23年1月期の配当予想につきまして、第2四半期末配当実施の有無につきましては7月中旬に、期末配当につきましては第3四半期が終了し、年末商戦を見極めた上で発表させていただきます。

### 3. 平成23年1月期の業績予想(平成22年1月21日～平成23年1月20日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計期間	1,248	4.3	61	2.8	—	—	—	—	—
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

1. 第2四半期累計期間の経常利益、当期純利益および1株当たり当期純利益につきましては、開示対象ではありますが、当社では予想をさし控えさせていただきます。

2. 当社の通期の業績は、年末商戦期間(10～12月)の業績に左右されます。このような玩具市場の特性に鑑み、第3四半期までは通期の業績予想発表をさし控えさせていただきます。

#### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他 をご参照下さい。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年1月期第1四半期	4,437,500株	22年1月期	4,437,500株
② 期末自己株式数	23年1月期第1四半期	79,816株	22年1月期	79,816株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	23年1月期第1四半期	4,357,684株	22年1月期第1四半期	4,357,684株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。

5. 平成23年1月期第2四半期（平成22年4月21日～平成22年7月20日）および  
平成23年1月期第2四半期累計期間（平成22年1月21日～平成22年7月20日）の業績予想

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		第2四半期純利益		1株当たり第2四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
23年1月期第2四半期	556	(△5.0)	△ 10	( - )	※	※	※		※	
22年1月期第2四半期	585	(△0.3)	19	( - )	△ 1	( - )	△1	( - )	△0	15
23年1月期第2四半期 累計期間	1,248	(4.3)	61	(2.8)	※	※	※		※	
22年1月期第2四半期 累計期間	1,197	(10.3)	59	( - )	43	( - )	24	( - )	5	59

(注) 経常利益および当第2四半期純利益ならびに1株当たり当第2四半期純利益につきましては、開示対象ではありますが、当社では予想をさし控えさせていただいております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

売上高前年同四半期実績対比13.1%増

当34期に入り、玩具部門の販売トレンドが上向きとなり、売上高は6億92百万円、前年同期対比13.1%増となりました。

玩具部門では、乳児・保育カテゴリーにおける既存品「熱中知育シリーズ」が新春からゴールデンウィークまで予想を越えて上向きトレンドを示し、構成玩具では新製品「ピタゴラスこれなーんだ」(税込み4,410円)のヒットが加わり売上増に繋がっています。同カテゴリーでは、2歳児を対象に新たな市場を開拓する「2歳の子供部屋」(税込み15,540円)を発売し業界の話題を盛り上げております。

乳児玩具では“ノンキャラ良品シリーズ”で3月に発売した新製品の殆どが補充開始された他、6年来販売継続しているロングセラー品がTV番組で取り上げられ新たな口コミ話題となり、新しい消費者動員を促してシリーズ全体で強い回転を保っております。

又、女兒玩具カテゴリーでは、お人形の全般市場が大幅縮小トレンドを迎えていますが、当社のぼぼちゃんシリーズはほぼ前年並みに縮小を食い止め、カテゴリー売上を支えています。更に、前年度に人気沸騰し長期欠品していた「エコパピエ」(税込み4,179円)が当四半期の3月に販売再開後、好調を示し同カテゴリー売上増に結び付けました。

自転車部門では、当四半期でいきなり自転車シリーズの新製品として、「かじ取り式」新色ブリテッシュグリーン・「折りたたみ式」マーマレードオレンジ・業界初「“折りたたみ&かじ取り合体新機構”」のプレミアムと3種連続発売で人気を維持しています。又、当四半期では、いきなり自転車を卒業する小学校1年生に向け新製品「いきなり24インチ」を全国発売しており、新しい挑戦への取り組み店舗は未だ小規模ですが、挑戦店の意欲は高く期待を集めております。

営業利益は前年同期対比77.2%増益

売上高が前年同四半期対比で増収となった上に、当四半期では円高基調が輸入品原価に影響して原価率を引き下げ、売上総利益で大きく前年同期実績を上回ったため、当第1四半期の営業利益は71百万円となり前年同期対比で77.2%増となりました。営業利益率が第一四半期で10.3%とガイドラインを越えたのは、7年ぶりとなりました。

当四半期では、営業外収益に保有していた投資有価証券の売却益を計上したことで、経常利益および税引前四半期純利益が84百万円となり、四半期純利益は58百万円となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べて主として配当金の支払による現預金の減少で1億81百万円の減少となりました。

負債の部においては、当四半期末日をまたぐ輸入仕入決済による買掛金の一時的な増加、および次四半期以降に支払予定の配当金残高計上の一方、法人税等の支払いにより、前事業年度末より31百万円減少しました。

純資産は四半期純利益の計上、利益剰余金の配当により、前事業年度末より1億51百万円減少の17億41百万円、自己資本比率は79.5%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物は、期首より2億89百万円減少の14億1百万円となりました。主な要因は次の通りです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、主として法人税等の支払により1億12百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券を取得した一方、順次売却を進めたことで16百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主として配当金の支払により1億60百万円の支出となりました。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

ゴールデンウィーク商戦を挟み市況は不透明感が出てきており、回復傾向にあった玩具部門も再び鈍化し、完全回復直前に足踏み状態が予想されます。又、自転車部門でも、当社製品は売れ行き上位に位置してはいるながらも、大人車を含む自転車市場販売数が前年を下回るトレンドにあり、幼児用自転車も同調する傾向が見られます。総合して現時点では第1四半期の好調を維持する方向への楽観は許されず、第2四半期では前年実績を4%~5%程度下回る予想をしています。

このような一進一退の状況から、当34期上半期(第2四半期累計期間)予想は前年実績を上回っても僅か3%~4%程度の範囲という見通しです。

### 4. その他

#### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

##### (簡便な会計処理)

##### ① たな卸資産の評価方法

当社では実地棚卸を第2四半期末、期末で行っており、第1四半期会計期間末の棚卸高算出に関しては実地棚卸を省略しております。又、販売不振が予想される不動産等の評価の洗い直しを目的とするたな卸資産の簿価切り下げにつきましては、収益性の低下が明らかなもののみ正味売却価額を見積もり、簿価切り下げを行う方法をとっています。尚、当期第1四半期ではその対象となるたな卸資産はありません。

##### ② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産につきましては、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっております。

##### ③ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しましては、加算減算項目や税額控除項目の内、重要なものに限定し算出しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に、経営環境等の著しい変化、かつ一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合は、前事業年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニング(将来の法人税等の発生について予測し計画すること)を利用する方法によっております。

## 5. 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年4月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年1月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,400,941	1,689,892
受取手形及び売掛金	388,188	294,767
商品	174,765	162,020
原材料	905	2,090
その他	15,628	23,863
貸倒引当金	△738	△559
流動資産合計	1,979,690	2,172,073
固定資産		
有形固定資産	57,914	58,674
無形固定資産	4,041	4,298
投資その他の資産		
投資有価証券	61,956	50,544
その他	87,354	86,445
投資その他の資産合計	149,310	136,989
固定資産合計	211,265	199,961
資産合計	2,190,956	2,372,034
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	173,560	136,680
未払法人税等	16,742	133,724
その他	209,818	160,261
流動負債合計	400,119	430,665
固定負債		
長期未払金	50,000	50,000
固定負債合計	50,000	50,000
負債合計	450,119	480,665
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,712	162,712
利益剰余金	1,385,358	1,523,255
自己株式	△42,579	△42,579
株主資本合計	1,744,290	1,882,187
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,454	9,182
評価・換算差額等合計	△3,454	9,182
純資産合計	1,740,836	1,891,369
負債純資産合計	2,190,956	2,372,034

(2)【四半期損益計算書】  
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年1月21日 至平成21年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年4月20日)
売上高	612,161	692,066
売上原価	310,038	330,599
売上総利益	302,123	361,467
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	78,128	109,156
販売促進費	12,037	10,316
運賃	35,773	38,161
役員報酬	17,362	18,461
給料及び手当	45,347	45,336
支払手数料	18,925	14,370
研究開発費	16,670	16,643
その他	37,668	37,776
販売費及び一般管理費合計	261,910	290,218
営業利益	40,213	71,249
営業外収益		
有価証券運用益	2,780	-
投資有価証券売却益	-	14,602
その他	621	904
営業外収益合計	3,401	15,506
営業外費用		
為替差損	-	1,534
投資事業組合運用損	585	-
為替予約評価損	-	1,342
営業外費用合計	585	2,877
経常利益	43,029	83,878
特別損失		
固定資産除却損	14	-
特別損失合計	14	-
税引前四半期純利益	43,015	83,878
法人税、住民税及び事業税	3,771	15,940
法人税等調整額	14,208	9,739
法人税等合計	17,979	25,679
四半期純利益	25,036	58,199

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成21年 1月21日 至 平成21年 4月20日)	当第1四半期累計期間 (自 平成22年 1月21日 至 平成22年 4月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	43,015	83,878
減価償却費	9,586	6,928
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△14,602
売上債権の増減額(△は増加)	△17,491	△93,421
たな卸資産の増減額(△は増加)	26,817	△11,560
仕入債務の増減額(△は減少)	10,295	36,880
その他	29,876	10,645
小計	102,098	18,748
利息及び配当金の受取額	102	3
法人税等の支払額	△543	△130,947
営業活動によるキャッシュ・フロー	101,656	△112,195
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△9,980	△6,424
投資有価証券の取得による支出	-	△79,822
投資有価証券の売却による収入	-	70,535
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,980	△15,710
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△85,678	△160,583
その他	52	83
財務活動によるキャッシュ・フロー	△85,627	△160,499
現金及び現金同等物に係る換算差額	△142	△462
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,908	△288,868
現金及び現金同等物の期首残高	1,087,505	1,689,414
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,093,413	1,400,547

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. カテゴリー別販売の状況

① 第1四半期会計期間累計売上高

	前年第1四半期累計期間 (自平成21年1月21日 至平成21年4月20日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年1月21日 至平成22年4月20日)	前年同期比 (%)
乳児・知育玩具	222,511	268,621	120.7
女児玩具	158,977	164,231	103.3
遊具・乗り物	174,755	187,367	107.2
その他	55,918	71,847	128.5
合計	612,161	692,066	113.1

② 新発売商品 (当第1四半期累計期間発売)

カテゴリー名	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育玩具	「ピタゴラス これなーんだ？」	¥4,410
	「新生児から遊べるベビージムはこれだけ」他、 ベビーシリーズ計5種	¥714～¥2,079
	「2歳の子供部屋」	¥15,540
女児玩具	「おしゃべりベッド」 (リニューアル)	¥3,129
遊具・乗り物	「新体感ブロック」	¥15,540
	「いきなり自転車 かじとり式」ブリティッシュグリーン	¥23,940
	「いきなり自転車 折りたたみ式」マーマレードオレンジ	¥23,940
	「いきなり自転車 軽合金プレミアム」シャンパンゴールド	¥31,290
	「チェーン式三輪車」トリコロールチェーン	¥17,745